

◆マリンカレッジ

学習支援NPOへの少年水産教室

水産海洋技術センター 紫波俊介、久保弘文

1. 目的

生活保護受給世帯への学習支援教室と連携し、同生徒に対し、少年水産教室を実施することで、地域の社会人や産業・食物に直接ふれあい、地域との繋がりを感じて、自分らしい生き方実現への機会の一つとすることを目的とする。なお、本活動は未来のマリンパワー確保・育成一環支援事業を活用した。

2. 方法と結果

平成26年度より学習支援NPO（生活保護受給世帯児童学習支援教室）、糸満漁協、仲買人、県が連携し、水産教室（座学・乗船・調理実習）を実施しており、沖縄水産高校へ入学する者も現れた。

今年度も地元での児童の身近な存在となり得る、沖縄水産高校生徒・教諭に講師をして頂く予定だったが、台風来襲による水産教室日程変更により、参加できなくなってしまった。

そのため漁協ソデイカ生産部会に要請し、大嵩博正部会長と、その乗り子である水産高校卒業生乗組員城間孝大氏（22才）を講師とし、日程を短縮して実施した。なお、糸満漁協は仲本重也総務課長が中心となり、事前調整・現場とりまとめを行い、平成28年10月29日に開催した。

（1）座学

当職・大嵩部会長より、糸満の漁業概要、若い漁業者にとっての漁船漁業の魅力について説明を行った。城間氏より、動画を用いて、ソデイカ操業の説明を行った。また、水産高校卒業後、県外船船員になったが、地元糸満に帰り、漁師を始めたという自身の経験について講話

した。

（2）乗船実習・食事

青壮年部漁船3隻に生徒・教師が分乗し、喜屋武沿岸でグルクン釣り操業体験を行った。

帰港後、青壮年部が漁獲した魚をさばき、船揚げ場で食事を行った。

3. 考察

本活動は沖縄水産高校へ入学する者も現れるという、成果を上げた。

糸満漁協では、児童福祉施設児童等への活動も開始しており、水産教室を多く開催しているため各方面に負担を強いている。そのため、城間氏のような水産高校を卒業して間もない漁業者も出てきたこと、また、補助金事業から脱却し、自力での開催を目指すため、助成が少なく、漁業者の負担が大きい児童福祉施設児童らへの活動に集約することとし、本活動は発展的解消とすることとなった。



普及指導員による糸満の漁業説明



大嵩博正ソデイカ部会長、城間孝大氏による漁法説明



糸満漁協青壮年部によるグルクン釣り体験



青壮年部による解体作業



仲本重也総務課長による講話